



仏教青年連盟機関紙

まこと

Reflecting on yourself,
start doing what you can !

もくじ

- 2・3・4 やまぐち大会の報告
- 5 全国のYBA
- 6 海外特集(ブラジル)
- 7 YBA Goods紹介
- 8 インフォメーション



No. 134

発行所 〒600-8501
 京都市下京区堀川通花屋町下ル
 浄土真宗本願寺派宗務所内
 浄土真宗本願寺派
 仏教青年連盟広報委員会

郵便局番口 01080-4-4571

電話 075(371)5181(代)

印刷所 創文堂印刷株式会社



山口教区による大会報告

私も参加しなかった大会
〜2005全国真宗青年の集いやまぐち大会を終えて〜

実行委員長 山中 典征



七月三十・三十一日に山口の仙崎で行われた全国大会が成功だったか、それとも失敗だったかと聞かれたら、間違いなく「大成功だった!」と私は答えるでしょう。アンケートでも「とても良かった、楽しくて、感動的
で、ほかの参加者と交流を深めることのできる大会であった」という意見が寄せられていました。

私自身、こういう大会なら主催者としてでなく、一般参加者として大会に参加したかったなと思ったほどです。こんなすばらしい大会になったのも、ひとえに、講師の先生方やコンサートに出演された方や、仙崎の地元の方がた、大会OBの方がた、大会スタッフが丸になって、大会を盛りあげようとした結果だと思えます。その思いが、一つの大きなうねりとなって、心を打つ大会になったのではないだろうか。

また、私がびっくりしたもう一つの事は、参加者のマナーが大変すばらしかった事です。自分から積極的に楽しもう、参加していいこうとする前向きな姿勢がとてもよく出ていました。早朝にも関わらず、二日目の朝の集いは大勢の参加者が来てくれました。そのかわり重誓偈の調声をした私、とても緊張しましたけど。

来年の宮崎の全国大会にもぜひ参加しましょう。テーマが「ありがとう〜今、大切なこと〜」ということで楽しみにしています。また、山口で出会った友とも宮崎で再会しましょう。最後に、みなさん、本当にありがとうございました。



2005全国真宗青年の集いやまぐち大会 第二日目

福岡教区 内野 正幸

仏青全国大会は「みんなちがって、みんないい。」のテーマのもと開催されました。このテーマは、今大会が開催される長門市仙崎で生まれ育った童謡詩人金子みすゞさんの詩「私と小鳥と鈴と」の結びの二節から引用され、みすゞさんの詩を扉として開催されます。

毎年会場に到着して感じますが、まあ参加者の多いこと! 海外からはカナダ、北米、南米、ハワイとこれまた例年通り参加者がたくさん。早速振り分けられた班に分かれ第一日目の開始です。

開会式の後、教学伝道研究センター所長(元龍谷大学学長)の上山大峻氏の記念講演が行われ、記念講演終了後は福岡の中島宏さんによるグループ・アップ・ゲームで各々の班のみんなや参加者全員で手を取りあい親睦を深めながら時間はあっという間に過ぎていきます。夕食時はアフリカ民族音楽サークルの打楽器ライブで、参加者全員で夕食会場の床が抜けるかと思うほどの熱狂乱舞!そして地元山口出身の歌手で、金子みすゞさんの詩を歌にして活動されているちひろさんのコンサートと、熱くもしっとりとしたディナーパーティーで第一日目の大会プログラムを終えました。

毎年全国大会は開催した教区の様々な趣向と色んなアイデアで盛り上がりますが、大会を運営する立場と参加する立場に分かれようとも、大会目的をいたたくという意味では共に参画する立場であり、「招く」側や「お客様で参加する」側という意識では仏青活動とは成り得ないのだと改めて感じました。今大会は参加者も「お客様」でなく自分たちの大会として参加し、スタッフと参加者が一緒に楽しめた、いい大会でした。

総裁(新門)様開会式お言葉



観点から、自己主張の重要性も言われる日本という国を目指すべきという観点から、時に個々の命の尊厳性を損ない、他の人の人格を傷つけ、他の人の人生を勝手に評価し、自己中心的な考え方を他の人に押しつけるといったことにつながっているのではないだろうか。

浄土真宗の教えというのは、年齢や性別、社会的地位や経済的に裕福かどうかといった価値観にとらわれることなく、全ての人々が平等に阿彌陀如来によって救われると言うことです。阿彌陀如来によって救われるとは、命が終わると浄土へ生まれ、証りをひらくということにとどまらず、今生きている人生を生・老・病・死という苦しみを乗り越えて生きていくことが出来るという事です。これからも阿彌陀如来のみ教えを聴き、いつまで続くか分からない自分の人生を生きていただきたいと思います。



社会の状況は、国民がみな中流階級であるといわれた時代から「勝ち組」と「負け組」というように二極化してきています。そして相続税率の引き下げやエリート教育の必要性が叫ばれるように、さらに社会の二極化という構造が加速するように思われます。また外国と対等関係である日本という国を目指すべきという



第二日目

国府教区 鈴木 敏子

バスに揺られてたどり着いた所は金子みすゞの故郷・仙崎。バスを降りれば本大会のメインイベント「仙崎ふしぎ発見」スタート！「仙崎ふしぎ発見」とは、指定された場所写真撮影、ポーズの良さを競ったり、通りに飾られた金子みすゞの詩や大会限定レアカードを見つけたりするゲームです。

参加者たちは大会パンフレットを片手に「ここ」「ここ」「違う、さっきの場所だ」と撮影場所を探します。撮影場所を見つけたら、こたわりの写真撮影。「ここ？」「もうちょっと後ろ」という声があちこちから聞こえてきます。灼熱の太陽の下でどの班も順調に撮影を進め、かつ仙崎を楽しんでいました。例えば、みすゞ通りでくつろぐ可愛らしい猫たちに携帯電話のカメラを向けたり、初めて見るちくわ作りの光景に驚いたり、海をバックに写真撮影をしたり…。

「仙崎ふしぎ発見」の際には、金子みすゞ記念館も見学しました。館内の詩を楽しめるギャラリーを見学していると壁に手をかざしている人を発見、その人の真似をしてみると何と詩が手に映った！とてもよく工夫された詩の展示に歓声をあげる参加者の姿も見られました。

写真を撮り終わったら、ゴール地点のシーサイドスクエアへ一直線。ゴールした後、配られたカマボコ板に大会の思い出を記します。何を書くかかと班員同士で相談したり、一人で考えたりと、みんなちがった思い出記述の過程が見られます。記された思い出もみんなちがっていて、他の人の板を見る度に様々な角度から大会を楽しく思い出さることができ、「みんなちがってみんないい」という言葉を実感しました。

最後になりましたが、仙崎では、地元の方々からみすゞの詩のように優しい心遣いをしていただきました。この場を借りて深く御礼申し上げます。



やまぐち大会人気アイテムの パンフレット

やまぐち大会で人気の高かったパンフレットを紹介させていただきます。パンフレットは、まるでアルバムのようにできて、デザインもどこかの人気雑誌かと思ってしまうほどです。一枚一枚がポストカードになっていて、こだわりを感じる衝撃的なアイテム！斬新なアイデアのつまった大会が終わった今、ふとパンフレットを開くと、その一枚一枚が仙崎の記憶を鮮明に思い出させてくれます。(パンフレットに掲載されていた美しい写真や金子みすゞさんの詩などを転載します。)

「私と小鳥と鈴と」

私が両手をひろげても、
お空はちつとも飛べないが、
飛べる小鳥は私のやうに、
地面を速くは走れない。

私がからだをゆすつて見、
きれいな音は出ないけど、
あの鳴る鈴は私のやうに
たくさんな唄は知らないよ。

鈴と、小鳥と、それから私、
みんなちがつて、みんないい。

『金子みすゞ全集』(JULA出版局)より



ようこそ



2005全国真宗青年の集い
やまぐち大会
7月30日(土)～31日(日)



ありがとう

～今、大切なこと～

2006全国真宗青年の集い

宮崎大会

8月5日(土)～8月6日(日)

主催：浄土真宗本願寺派仏教青年連盟
担当：九州ブロック/会場：宮崎県宮崎市

ダーナ献金、
ありがとうございました。

全国大会で集まった金額は54,171円でした。
このお金は、「沙漠緑化アミダの森」に
送ります。

今後とも、皆様のご協力をお願いします。



全国のYBA



「自然について考えた」 ～中部・北陸ブロック真宗青年の集い～

去る9月3日(土)～9月4日(日)に「中部・北陸ブロック真宗青年の集い」が開催されました。会場は金沢別院。「自然とともに」をテーマに大会は進行します。

1日目は兼六園。班別に分かれ、初対面の方たちとの交流を深めながら、人間の造り出した人工自然の庭園を散策し「自然」について考えました。その日の晩は金沢別院にて懇親会。境内でいただくバーベキューは格別でした。

2日目は、講師の高田篤敬先生とテーマについて班別討議及び質疑応答を行い、各班いろいろな「自然観」を発表されました。

ブロック大会には初めて参加いたしました。ゆったりとした雰囲気の中で過ごすことができました。最後になりましたが、スタッフの皆さんお疲れ様でした。充実した2日間をありがとうございました。

岐阜教区 大野 春彦

「仏様はユビキタス」だ！～近畿ブロック研修会～

「自然の叡智」という大きなテーマを抱えた愛・地球博、そこに近畿ブロックの面々が降り立とうとしていた…。

前日からの名古屋入りで、まず名古屋別院に参拝。近代的な建物の外観と中の荘厳さのギャップに驚きながら、勤行。続いての法話では「仏様はユビキタス」という題でお話をいただきました。ユビキタスとはコンピューター用語です。語源はラテン語で、いたるところに存在する(遍在)という意味です。インターネットなどの情報ネットワークに、いつでも、どこからでもアクセスできる環境を指します。ここまでの解説を聞いて「あっ仏様も同じだ」と思われた方、感性が鋭い。つまり「仏様は自分から遠い存在ではなく、すぐいまここにいらっしゃるのだ、ユビキタスという状態なんだ!」ということなのである。そして、それに気づけない我われが目当てであると話を結ばれました。

あけて2日目。そうそう今日は愛・地球博!更に今回はただ観光ではなく、会場内の自然の中を案内していただきながら自然について考えようというモノでした。自然を体感する時間では、人のにぎやかさから離れて「ホントにここは万博の中か?」と思える静けさ、企業パビリオンに人気が集まる中、「最新のテクノロジーはこの自然を守るものでなければ」という気持ちと「自然の中で生かされている自分」を強く感じました。

万博の敷地は自然地形をなるべくそのままに保ち、自然との調和・共存を前面に打ち出す構造になっていました。それを象徴するかのように通路が全世界をつないでいて、「世界も自然も人もみんなつながっているんだ」ということ、そして個性的な世界のヒト・モノとの違いを受け止めるということが少しだけ解ったという、2つのことに気づくことができました。

近畿のメンバーも「仏青の『気づき』というものは身近に遍在している」ということに気づけたようです。

奈良教区 太田 智昭



仏青よ 外へ出よ ～子ども会サマースクール～

2004(平成16)年から奈良教区少年連盟が開催している「子ども会サマースクール」に、仏青会員もスタッフとして協力しています。1泊2日のイベントに向けて、準備段階から「どうすれば子どもたちが喜んでくれるかな?」とアイデアを出し合ったり、当日、子どもたちと共に時間を過ごすなかで、子どもたちの自由奔放な発想に刺激されたり…子どもたちから教えられることがたくさんあります。もちろん、仏青としての活動(研修会やイベント)が盛り上がっていくことが一番ですが、「仏青だけの活動」にとどまらず、子ども会や、仏婦・仏社など他の教化団体との連携プレー、災害時のボランティア活動などに積極的に関わってゆくことが、自ずと仏青活動の活性化にも繋がってゆくのではないのでしょうか。一晩歩き通して本山のお晨朝に参拝する、なんていうのも面白いかもしれませんよ!

奈良教区 更科 光





海外特集 ブラジル



(取材/奈良教区 三浦 明利)

全国大会には、海外から北米・カナダ・ハワイ、そしてブラジルの青少年国際研修団四十五名が参加しました。この日は、日本に滞在していたブラジル国際研修団が「帰る前にお世話になった人たちにお礼をしたい」ということで、交流会が開かれました。国際研修団は日本のスタッフたちにブラジル式バーベキューをふるまってくれました。そこで和やかな雰囲気のもと、インタビューを行いました。

全国大会についてのインタビュー

やまぐち大会で大盛り上がりだったジャンベのライブタイムでの、さらなる火つけ役となっていたブラジルの国際研修団は「サンバだったら朝まででも踊っていたよ。インドレスさ」と言う。この社交的な陽気さは誰をも巻き込む力を持っている。

「全国大会で日本人との交流の機会がほしかった、コミュニケーションがとれなかったんだよ」とも言っていた。言語の隔たりを解決する通訳や交流のための配慮は今後、より国際的になっていく仏青の活動にかかせないものになってくるだろう。



ブラジル式バーベキューの紹介

肉を焼きながら上から塩水をかけて味つけをする。味が染み込んでいるので、食べたときに肉の芯までうまみがある。ピカニャと呼ばれる牛肉の部位は、ブラジルでは高級なもの。その他、あばら肉などいろんな肉が用いられる。

肉は焼きあがった肉をピナグレというソースにつけて食べる。さっぱりとした生野菜のソースである。

※ピナグレの作り方(たまねぎ・セロリ・トマトをみじん切りにし、酢と混ぜたもの)

ブラジル式バーベキューには南米のドリンクがびったり！マラクジャ(パッションフルーツ)や、カジュ(カシューナッツ)、グラピオーラ(アケビのような果物)のドリンクは最高！また、ガラナジュースはブラジル料理に合う、日本でも手に入りやすい一品！ぜひお試しを☆



南米の仏青事情

ブラジルの仏青の活動は地域によっても活動内容が違おうのだが、リンス仏教会では月曜ダンス、火曜バレーボール、水曜サッカーなどを行っている。その中で、自分の好きなスポーツの日だけに開催してほしいのだ。そして週末に全員で集まる機会がある。そこにあるのは、それぞれの「楽しみ」と結びついた仏青の姿だった。仏青が「楽しみ場」なのである。日本の仏青もこれに学ぶことは大きいのではないだろうか。



Y.B.A Goods 紹介!!



腕輪念珠



3色になってさらに好評をいただいています。本当にうれしい限りです。この先これ以上に気に入ってもらえるデザインのもので作れるか不安ですが、教材委員全員の知恵を絞り出して、今後も取り組んでいきます。ただどうしても行き詰まるときがあります。ですから、是非使っていただいている皆さんの声を、どんなことでもいいので聞かせてください。

今のデザインは使っていただいた方からの声をなんとか反映させたいという委員の思いが込められたものです。だから是非よろしくお願ひします!!!!

【登録価格¥120 一般価格¥150】

このタオルを作ったときは、これほどみなさんに使ってもらえるとは思ってなかったですね。5色になってしばらくたちましたが、未だすべての色をそろえることができません。個人的にも仏青の活動に参加してなんとか集めているのですが、未だ2色(笑)今となっては、ちょっとした楽しみになっています…僕だけかも(´・`); ということで、どんどんみなさん研修会などの記念品としても使ってください!

緑・紫・青・黄・ピンクの5色 【登録価格¥350 一般価格¥400】

タオル



名札



あなたの胸にとまりたい

実はタオルや念珠以外にもたくさんのグッズがあります。たとえば名札!カラフルな外枠に、中にはお好みで名前やニックネームなどを書いて使ってくださいね。その他、ナップサック・クリアケースなど、便利でかわいいグッズがいっぱいありますよ!

名札は青・緑・黄・赤・紫の5色 【登録価格¥50 一般価格¥60】

ナップサックはリュックにもショルダーにも使えます 【登録価格¥300 一般価格¥350】

クリアケースは青・黄・緑・橙の4色 【登録価格¥350 一般価格¥400】

NEW

現在、教材委員会は新たな教材を企画しています。何とか年度内にみなさんにご紹介できるように委員全員でがんばっています。で、何を作っているかというところ…一つは新バッグ!!長年使ってきた形をいざ変えらるとなると、いろんな思い出がよみがえってきます。でもっ!思い出を引きずってはいけません!と考へているので、ここは思い切って変えちゃいます!形やデザインはまだ試行錯誤中なのでいえませんが、誰でもどこでも使いやすいものを考へていますので期待してください☆2つめは…おっと、これ以上という委員の皆さんにしゃべりすぎ!って怒られるので…。他は出来てからの楽しみということで、許してください。ただ、一言だけ! いいものつくります(´・`)v

アクセスしてね

仏教青年連盟ではHPを開設しています。仏青の歴史やGoods紹介、また各地で行われたイベント行事などの報告や今後の行事予定など、仏青に関する情報を掲載しています。

また、皆さんからの投稿も募集しています。行事報告やイベントの告知PRなども、どしどしお寄せください。できるだけ掲載いたします。

URL <http://www2.hongwanji.or.jp/soshiki/yba/>



総裁様ご婚約

大谷 光淳 総裁様(28)におかれましては、このたび古川 ^{ふるかわ} 流豆美 ^{るずみ} 様(29)一宮崎教区高鍋組信楽寺衆徒一とご婚約されました。2005(平成17)年10月20日には公式に宗派からご婚約の旨が発表され、宗門は大きな喜びに包まれました。

お二人の結婚式は2006(平成18)年3月25日に本山にて執り行われます。

総裁様には、2003(平成15)年4月に仏教青年連盟総裁にご就任されて以来、全国真宗青年の集いや中央委員会、ブロック大会にご臨席いただくなど、仏青活動に大きなお力添えをいただいております。

仏青会員一同、心よりお祝い申し上げます。



「五来りしんがら…」

二〇〇四(平成十七)年十月二十三日、今から一年余前。あの新潟県中越地震が起こりました。あれから一年が経ち、復興へと一歩ずつ一歩ずつ…、その願いとは裏腹に、いまだ仮設住宅で暮らしている被災者の方が九、〇〇〇人以上もいるといえます。

目まぐるしく移り変わり行くこの世の中で、自然災害というものを私たち人間は避けて通ることは出来ません。いつ自分の身に降りかかってきてもおかしくありません。私たちはどのように受け止めていくべきなのでしょう。

災害時に多くの方が心が受けた傷、そこには大きな不安、深い悲しみ…、計り知れないものがあると思います。そんな時に、一人でも多くの人が、少しでも手を差し伸べることが出来たなら、被災地の方たちにとってはとても大きな温かい救いとなるはずです。

仏青のスローガンをご存知ですか? 「自分をみつめ、できることから始めよう!」(Reflecting on yourself, start doing what you can!)」のスローガンを胸に、共に行動していきましょ。

岐阜教区 栗本 真実子

編集後記

ドーンとカラーになって大変身の「まこと」です。皆さんの要望と、広報委員のワガママと事務局のご理解があつて、遂に全ページカラーが実現しました。仏青に参加する皆さんの屈託ない笑顔を鮮明に映し出すことが出来るようになりました。いやはや、うれしい限りです。多くの助言のもと、全国に散在するスタッフが京都に集結し、一人でも多くの方に手に取っていただきたいという一心で仕上げました。

編集中はアイデア溢れて溢れて…。次号はさらにおもしろくなりそうですよ! スタッフの皆さん、そして読者の皆さん次回からも新しい「まこと」ご期待ください!

(広報委員一同)